宇田淵（栗園）
年表

『明治過去帳』→【明過】「桂宮日記」→【桂日】　宮内庁宮内公文書館→【宮内】
京都府庁文書→【京府】　「名家歴訪録」→【名歴】　『西岡風雅』→【西風】　岩倉具視関係文書【岩倉】
『静観亭遺稿』→【栗花】　『静観亭遺稿』→【静観】　「山階家日記」→【山階】

和暦	西暦	年齢	事項【出典】
文政10	1827	1	1月25日、乙訓郡神足村宇田貞造(利起)の末子(6番目)として生まれる 【静遺】 医学を宗真哉に、読書を岩垣松苗に学ぶ【名歴】【静遺】
天保8	1837	11	このころ本居大平の門人であった父の勧めで和歌を詠むが、兄たちの影響で漢詩を詠むようになる【名歴】
弘化2～	1845	19～	乙訓郡土川村で医業。地元で漢詩を通じた交流【名歴】。梁川星巌が京に移住し、星巌の門人となる【名歴】。『伝習録』を読み、陽明学を信奉するようになる
安政3	1856	30	元日、「愁中又病中。三十猶未立」の詩を詠む【静観】
安政5	1858	32	元日、「那得書生無感慨」の詩を詠む【静観】 梁川星巌没　土川村で草莽の志士を匿い、探偵を置かれるようになる【名歴】
文久2	1862	36	西岡の漢詩檀を主宰し、詩人として活動する【西風】 漢詩集『文久二十六家絶句』に26点が収められる。
文久3	1863	37	梁川星巌門人として『星巌先生遺稿』を編集する
元治1	1864	38	7月19日　禁門の変
元治2 <慶応元>	1865	39	元日、「憂国傷時涙満巾」の詩を詠む【静観】 このころ、蟄居中の岩倉具視のもとへ出入りするようになる【名歴】。
慶応2	1866	40	元日、「愧作平頭四十人」の詩を詠む【静観】
慶応3	1867	41	12月9日、王政復古の大号令
慶応4	1868	42	1月3日、戊辰戦争開戦　　岩倉兄弟のもとで東山道総督参謀として参加【岩倉】。江戸に50日滞在するも脚気のため帰京帰京。岩倉家に居し、岩倉家の執事同様となる【名歴】 3月28日、明治天皇が東京に入る
明治2	1869	43	徴士弁事→留守判官→桂宮家令を拝命【京府】 (その後有栖川・閑院・久邇・山階宮等の家令御附等を兼務)【名歴】
明治3	1870	44	従五位に叙せられ、京都府権大参事を兼ねる【明過】 12月19日、山中献とともに、京都府貫属士族に列せられる【京府】 12月、京都府貫属士族トシ勤王ノ志浅カラズ終身扶持下賜【京府】 12月、桂宮家令に任じられる【岩倉】【名歴】
明治4	1871	45	1月10日　桂宮家来らに、京都府貫属士族として家禄下賜の太政官沙汰を伝達する【桂日】 2月、山城国の宮家領などが上地となる 2月22日、長岡天満宮境内の長岡明神社等を熊本藩へ引き移す旨を京都府に届ける【桂日】 10月15日、有栖川宮京都滞在中の家令兼勤を太政官より仰せ付けられる【桂日】 10月20日、長岡明神社の桂宮邸引き移しの旨を京都府へ報告【桂日】 12月4日、長岡天満宮社物・社地・建物を京都府へ引き渡す【桂日】 12月8日、武田敬孝・山中献・宇田淵について出仕の沙汰がある【京府】
明治5	1872	46	3月、石薬師御門屋敷を宮内省に上納する【桂日】
明治6	1873	47	8月19日、 静寛院宮家令武田敬孝と共に皇城炎上の見舞いを献金する【桂日】
			8月、宮内省八等出仕となる【京府】 閑院宮家令として宮家邸地坪数を京都府に届ける【京府】
明治7	1874	48	4月、静寛院宮東上ニ付、桂宮家で接待をする【桂日】

明治8	1875	49	4月20日、　府下病院建設ニ付宮家より寄付をする【桂日】 5月3日、宮内省香川敬三指示の御物９点の東京送付に付点検する 【桂日】　5月13日、宮内省より聖上皇后宮の大型写真１葉を受け取る。
明治9	1876	50	6月17日、京都府華族25～50歳のものを「祗候」として桂宮家に輪番させる 【桂日】 7月19日、蔦細道の硯箱と文台を献上する 9月9日、東山霊山の「維新ノ殉難者」招魂祭に寄付をする 【桂日】
明治10	1877	51	1月27日、皇太后行啓ニ付蹴上にて奉迎する 【桂日】 2月3日、天皇・皇后・皇太后の行啓ニ付献納能 【桂日】 2月18日、下桂別邸にて天皇を出迎える 【桂日】 **2月　大内保存事業が開始される【京府】** 3月20日、旧大宮御所で開催される博覧会に出品 【桂日】 7月25日、宮家伝来細川幽斎所持の古今伝授書類を天覧に供す 【桂日】 7月28日、天皇皇后東京還幸ニ付、京都停車場にて奉送 【桂日】 7月28日、京都御所宮殿取締を申し付けられる 【京府】 8月16日、京都御所建物目録帳送付 【京府】 **9月24日　西郷隆盛自害** 10月5日　御所内見廻りについて指示方打ち合わせ 【京府】 10月9日　療病院下賜の御所建物について申し入れ承知 【京府】 10月10日　御所内見廻りについて指示をうける 【京府】 10月11日　御所内破損個所について依頼 【京府】 12月17日　外国人拝観時間について了解 【京府】
明治11	1878	52	『近古史伝』の執筆者(共著)として名があがる 3月27日、工部省工作局御雇ショサヤ・ユンダー御所視察について諾否照会 【京府】 5月21日、久邇宮朝彦親王を招聘し、能を催す 【桂日】 10月11日、天皇の大津宿・発輦予定の書簡を送付する 【京府】 10月15日、天皇行啓ニ付、蹴上にて奉迎 【桂日】 10月31日　西京華族研究会の幹事を務めるようになる 【宮内】【岩倉】【栗花】 11月24日、初めての西京華族歌道講習会が催される 【岩倉】 12月13日、宮家伝来「紀貫之真跡万葉集」模写のため、内務省博物局へ貸し出す 【桂日】 12月14日、病気療養のため休職届を出す 【桂日】 12月17日、京都御所宮殿取締宇田淵に桂宮家扶が申し付けられる 【京府】
明治12	1879	53	1月14日、内国人京都御所拝観について京都府から通知される 【京府】 7月31日、コレラ流行ニ付、上京区第11組に予防薬購入の補助金を下賜 【桂日】 10月24日、内国人御所拝観について承知の旨を提出する 【京府】
明治13	1880	54	7月17日、天皇行幸ニ付、桂宮邸にて献能 【桂日】 8月10日、桂宮本邸・別邸の絵図面等を宮内省内匠家へ提出 【桂日】 11月20日、淑子内親王の病状が悪化し、宮内省へ報告する 【桂日】
明治14	1881	55	3月19日、香川敬三打ち合わせの儀、日光保晃会へ下賜 【桂日】 3月30日、御所・大宮御所・泉涌寺の修繕取り扱いを沙汰される【京府】 4月11日、上京区11組学区の小学校増築へ下賜 【桂日】 7月14日、岩倉具視、桂宮邸へ御成 【桂日】 **9月25日、 淑子内親王危篤。10月3日 、淑子内親王薨去。10月20日、 淑子内親王葬送【桂日】。**

明治15	1882	56	特旨をもって正五位、勲五等に叙せられる【明過】 4月、「桂宮御蔵品取調書」を作成する【宮内】 4月3日、乙訓漢詩人たちの『西岡風雅』刊行にあたり、題辞を寄せる【西風】
明治16	1883	57	御所・大宮御所・泉涌寺修繕の取り扱いを申し付けられる【京府】 5月25日、岩倉具視視察。28日、宮邸で宮内省出張所の御用始め【桂日】【岩倉公実記】 **7月20日、岩倉具視歿** **10月15日　宮内省京都支庁の開設【京府】**　祇園中村楼で催された北垣国道主催の宴会に招かれる【塵海】 10月19日　修学院離宮・桂離宮が、京都府から京都支庁へ引き渡される【京府】 11月5日、「桂宮御蔵品禁中文庫江御預ヶ点数書」(目録)を作成する【宮内】 11月9日　宮家所蔵の道具・書籍類を京都御所の御文庫に預け、「宮内省京都支庁」の封印を施す【桂日】【宮内】
明治18	1885	59	江馬天江らとともに、漢詩集『熙朝風雅』の評点者となる 6月24日、支庁会計課へ明治18年度桂宮経費元払予算帳を持参【桂日】
明治19	1886	60	2月6日、宮内次官より主殿権助の内翰【宮内】 **2月12日、桂宮の称号を宮内省に預ける事となる【桂日】** **2月20日、宮内省京都支庁が廃され、宮内省主殿寮京都出張所が開設される【宮内】** 主殿寮権助となる【宮内】　諸陵寮兼勤　勲四等【明過】 2月28日、桂宮家事取扱として、御殿向き総てを主殿寮出張所へ引き渡す【桂日】【宮内】 3月1日、桂宮邸建物外引継について届出る【宮内】
明治20	1887	61	12月8日、桂宮菩提所慈照院修繕について上申する【宮内】
明治22	1889	63	主殿寮出張所長となる。御歌所の出張が廃され、山階宮晃親王が向陽会長となる
明治24	1891	65	教王護国寺灌頂院の後七日御修法御衣を廻付する【京府】
明治26	1893	67	富岡鉄斎・宇田淵の発起した図書会を柳池小学校で開催
明治28	1895	69	4月18日、岡崎の内国博覧会場で「平将門髑髏」の絶句を詠む【静観】 6月23日、山階宮晃親王の歌会に、岡本宣顕と共に招かれる【山階】 7月　主殿寮出張所長を辞職【名歴】　7月2日特旨を以て従四位に叙せられる【明過】 10月19日、「長岡宮城大極殿遺址」の建碑式に、山階宮家家令と共に出席する【京府】 **10月22日から3日間、岡崎で平安京遷都千百年紀念祭が催される**
明治29	1896	70	栗園宅で高崎正風が和歌の講話をする
明治30	1897	71	11月、黒田譲(天外)の訪問をうけ、インタビューにこたえる【名歴】
明治33	1900	74	向陽会の教授に就任する
明治34	1901	75	3月、従三位勲三等に叙せられる。 4月17日、没　享年75歳【明過】【栗花】【静観】

明治37　1904　没後3年　歌集『栗廼花』(後嗣宇田豊四郎私家版　高橋正風序　藤枝雅之清書　谷鉄臣跋)

・慶応四年東山道総督の参謀仰付られける時おのれが携へし薙刀を

　きそ山の雪ふみわけしそのかみは　杖となしつる薙刀ぞこれ

・主殿権助に任せられしをりに

　けふよりはにしの都のとのもりと　なりてそまたん君の御幸を

・つかへをやめける時よめる

　とし月の重荷おろしてけふよりは　野飼の牛のみこそやすけれ

・明治三十四年なかは重き病にかゝり死ぬへうおほえけるをり

　死出のやまわけゆくミにもわすれぬそ　わか大君のめくみなりけり

明治44　1911　没後10年　漢詩集『静観亭遺稿』(中野太郎「宇田先生行状」　谷鉄臣跋)